

【学校名】北竜町立北竜中学校
【活動の名称】 「永楽園」(老人ホーム)訪問
【活用した資源】 町内の老人ホーム「永楽園」 「認知症理解プログラム」講師(老人ホーム職員)
【対象学年と活動の時期】 2年生 10月～11月

(項目ウー観点①居場所づくり)

【活動の概要】
ゲストティーチャー(老人ホームの職員)による「認知症理解プログラム」のワークショップを体験し、後日老人ホームを訪問して、高齢者の方々との交流を行う。

【ねらい】
高齢者との交流を通して、高齢者福祉について理解を深め、豊かな人間性を育てる。

- 【活動の流れ】
- オリエンテーション(高齢社会への理解・関心の喚起・グループ分け等)
 - 事前学習としてゲストティーチャーによる「認知症理解プログラム」のワークショップを実施。
受講したことにより認知症サポーターの証である「オレンジリング」をいただく。
 - 交流計画の立案
高齢者の方々に、無理なく楽しんでもらえるゲーム等の内容を検討する。
 - 交流の準備
カルタや神経衰弱、塗り絵、輪投げ等のゲームを作成する。



【入所者の方への挨拶】

- (5)「永楽園」を訪問する
- 施設見学(入居者の方々の生活について学ぶ)
 - 開会式(生徒代表挨拶など)
 - 3グループに分かれて、入居者の方々と交流する。
(カルタや神経衰弱等のゲーム)
 - 生徒全員と入居者の方々とで、カラオケで合唱
(「川の流れるように」)
 - 閉会式(入居者代表の方からのお礼と励ましの言葉など)



【ポイント】

- ゲストティーチャーによる事前学習をもとに、交流計画を立案しました。
- 入所者の方に喜んでもらうことで、自己有能感を高めるように努めました。

(6) 活動の振り返り、反省、入居者の方々への手紙



【施設入所者とのふれあい】



【ゲームを通じて交流】



【カラオケで全員合唱】

【生徒からのお礼の手紙より(抜粋)】

- 皆様方と接した時は、緊張のあまり、なかなか笑顔で接することができなかったところを、手本を見せていただき、私も、笑顔で接できるようになりました。同時に笑顔の大切さを改めて知ることができました。
- 交流していく中でみなさんのあたたかさを感じました。
- 皆様大変お元気で驚きました。笑顔も素敵でたくさん皆様に「私」が遊んでいただきました。
- 私たちのつたない歌声にも涙される方がいらっしゃり、うれしい限りでした。
- 皆様にとっても優しく接していただき楽しかったです。ゲームでは皆様のどきどきした顔や楽しそうな顔を見ていると元気になりました。

【本活動における成果等(留意点含む)】

- ・高齢者の方々との交流を通して、自己に内在する思いやりの心や自然に湧き起こる敬意について気付くとともに、他者と触れ合い、理解することの大切さについて考えるきっかけとなった。
- ・他者に喜んでもらうためには、相手の立場を理解し、自分がどのような行動を取るのが適切であるかを考え、他者の喜びが自分の喜びとなる事を実感する機会となった。

【学校名】北広島市立西の里中学校
【活動の名称】 体育祭におけるチーム会議
【活用した資源】学校内の異学年の混合チーム
【対象学年と活動の時期】全学年 5月下旬

(項目ア—観点②絆づくり)

【活動の概要】

- ・全学年を6つの異学年のチームに分け、対抗戦を行う。
- ・事前の練習や当日のチームごとの動きは、リーダーを中心に活動する。

【ねらい】

- ・運動に親しみながら、体力の向上と心身の充実を図る。
- ・異学年交流を通して、集団への所属感や連帯感を高めるとともに、望ましい人間関係を築くことができるようにする。
- ・生徒会役員や各委員長などで、第3学年のリーダー性を育むことができるようにする。

【活動の流れ】(縦割りチームに関わる部分のみ記載)

- ①担当教師が生徒の運動能力やリーダー性、学年の人数配分を考慮しながら、6つの異学年のチーム編成を行う。
- ②チーム別会議において、第3学年のリーダーを中心に、チームの目標、100m出走順、3回の長縄跳びの参加順番、玉入れの作戦、選抜リレーの選抜選手、全員リレーの出走順、チーム別練習の内容などを決める。

第3学年のリーダーを中心にチーム別会議を行っています。



チームの目標、各種目の参加選手、作戦などを決めていきます。



- ③チーム別練習において、全体練習以外は、常に第3学年を中心としたチーム別練習を行う。
- ④体育祭当日において、リーダーを中心にチーム単位で行動する。



開会式での堂々たる選手宣誓。青・赤・黄・緑・桃・白の6チームで、全力で戦うことを宣言します。



全員リレーの一場面。上級生が全力で頑張る姿を、手本として下級生に示します。



閉会式では、お互いの健闘を讃え合います。このチームで今度は、百人一首大会に臨みます。

【本活動における成果等(留意点含む)】

- ・異学年での交流を通して、互いを認め合う心や思いやる心が育まれた。
- ・体育祭終了後の日常生活や行事において、第3学年がリーダーシップを発揮する場面が増えた。
- ・第3学年が頑張る姿を見て、下級生が次年度以降の自分の姿をイメージすることができた。
- ・異学年間の生徒指導上のトラブルが減少した。

【学校名】北広島市立西の里中学校
【活動の名称】百人一首大会におけるチーム会議
【活用した資源】学校内の異学年の混合チーム
【対象学年と活動の時期】全学年 1月下旬

(項目ア—観点②絆づくり)

【活動の概要】

- 今年度で33回目を迎える代表委員会主催の伝統的な行事であり、体育祭同様、異学年のチームごとに活動を行う。

【ねらい】

- 日本の伝統文化である百人一首を通して、互いに協力し合い、チームの結束を高め合う意識を育てる。
- 生徒一人一人が意欲をもって学校行事に積極的に参加する態度を養う。

【活動の流れ】

- ①体育祭と同じチーム（リーダーも同じ生徒とする）で参加する。
- ②チーム別会議において、6つのグループに分け、リーダーを中心に作戦を考える。



体育祭と同じメンバーによるチーム会議を行い、その後、練習を進めます。

グループ分けをするため、個々の能力を把握するための実力チェックをします。



- ③体育祭同様、第3学年を中心としたチーム別練習を行う。



体育館でチーム別で練習を行います。練習を積み重ね、チームの結束を高め合います。



優勝目指して、各チームの気合のこもった練習が始まります。

- ④百人一首大会当日において、リーダーを中心にチーム単位で行動する。



白熱した試合が始まりました。



地域の方も参戦します。



地域の方々とのつながりを実感することができます。

【本活動における成果等（留意点含む）】

- 異学年の交流を通して、全校生徒のお互いを認め合う心や思いやる心が育まれた。
- 百人一首大会後の日常生活や行事等で、第3学年のリーダーシップが発揮される場面が一層増えた。
- 第3学年がリーダーシップを発揮する姿を下級生が見て、下級生が次年度以降の自分の姿をイメージすることができた。
- 異学年間の生徒指導上のトラブルがなくなった。

【学校名】小樽市立長橋中学校
【活動の名称】 地域と「歌でつながるプロジェクト」
【活用した資源】小学校、老人福祉施設
【対象学年と活動の時期】全学年 2学期

(項目ウー観点①居場所づくり)

【活動の概要】

- ・2学期の文化祭における合唱コンクールに向けた取組を、出身小学校や地域の老人施設等を訪問し発表する。異学年の有志でメンバーを編成し、練習を通して互いを認め合い、共感的理解や自己有用感を高めていく。

【ねらい】

- ・地域の中で支えられていることを自覚し、地域社会へ積極的に関わる態度を養う。
- ・地域の様子を理解するとともに、自分が地域の一員であるという自覚を深め、地域や仲間とのつながりを実感し、よりよい学校生活に生かす。
- ・活動を通して、生徒同士で共感的理解を深め、生徒一人一人の自己有用感を高める。

【活動の流れ】

- ①『歌で地域と仲間とつながる』をコンセプトとし、「響かせよう地域に優しい歌声を」をテーマに老人福祉施設、出身小学校の訪問について、生徒会が企画する。
- ②訪問先ごとに異学年集団で合唱練習をする。
- ③老人福祉施設、出身小学校を訪問し合唱を披露する。



《出身小学校にて》



《老人福祉施設にて》

【プログラム】

- はじまりの言葉
- ラジオ体操
- 校歌紹介(説明を含む)
- 合唱披露(2曲)
- 交流
- 訪問側から挨拶
- 写真撮影
- 終わりの言葉

- ④生徒会が文化祭でこの取組を映像で地域の方に紹介し、感想等を発表する。
- ⑤文化祭の反省とともにこの活動を振り返り、感想等を交流する。

～生徒アンケート・感想より～

★生徒アンケートから 「来年もあったら参加しますか」 【はい 86% いいえ 14%】

- お年寄りが涙を流し、喜んでくれて嬉しかった。
- 地域の方の役に立つことができた実感できた。
- 合唱を通して、音楽で地域とつながれるって素晴らしいと思った。
- 今まで続けてきた努力が見える形になった。
- 長中生の地域とのつながりが深まったと思う。
- 訪問は今後も続けるべきだと思う。 など・・・。

【本活動における成果等(留意点含む)】

- ・活動を通して、学年の枠を越えて練習や準備、本番に向かうことで、生徒同士の共感的理解を深めることができた。
- ・地域の方の歓迎や感謝の言葉、歌声を聴いて涙する姿を見て、生徒一人一人が自己有用感を高めることができた。
- ・受入れが難しい施設があるため、事前に学校と施設の間で密接な打合せ等を行い、実施に向けて、確認をしながら準備を進める必要がある。